

# さんらいずにゆうす

学校だより

2024年11月15日

日出祭特別号

日出学園小学校

校長 荻原 巖



## 日出祭を終えて

音楽科・日出祭実行委員 織間将

今年もこの【日出祭を終えて】の記事の依頼をいただきました。

こんなに広いスペースの記事を任せられるというのは恐縮至極ではございますが、2024年度の日出祭の総まとめとして恥ずかしくないものが書けるよう精一杯に努めさせていただきます。

まず、1日目の学芸会についてですが、『劇・音楽・クラブ発表』どれも臨場感に溢れた良い発表でした。一人ひとりの真剣な顔に目を向けてみれば、その子の舞台に懸ける思いが読み取れ、これまでの努力の過程も臉の裏に浮かぶかのようです。

指導に多く関わってきた人間だからこそ、それらを「より色濃く感じ取れる」ということはあるかもしれませんが。しかし多少の差こそあれ、そのような【人の思い】というのは、あの場の誰もが感じ取れたのではないのでしょうか。日出祭を終えた後、校長先生から「今年の学芸会は今までで一番、鑑賞態度が良かった」という講評をいただきました。『鑑賞態度についての事前指導が徹底されていた』というのも確かに大きな要因であると思います。しかし、それだけで約2時間の演目を子ども達は良い態度で観続けることができるのでしょうか。

『例年以上に、ひとつひとつの演目に発表者の思いが詰まっていた。それにより、見る聴く側も発表者の思いを大切にしながら鑑賞することができたのではないか』と私は考えます。まさに、会場全体の気持ちが一体となった今年度の学芸会。こんな発表を毎年できたら良いなと思えるものでした。

次に、2日目の展示会です。ここでは紹介しきれないほど、小学校棟内のあらゆる場所で多くの展示・発表がされていました。詳しくは、ホームページのブログ『ひのトピ!』の10月6日の記事に紹介されているので、そちらをご覧くださいませと幸いです。どの作品・発表も素晴らしいものでしたが、なかでも『英語クラブの人形劇』と『茶道クラブの発表』は数年ぶりの復活となり、個人的には大変うれしく思っています。一時は縮小を余儀なくされたこれらの活動も、様子を見ながら徐々に再開をし始める。この行動に、過去以上の更なる興隆の兆しを感じるからです。

子ども達が、「もっと、こうしよう!」という意欲に湧いた日出祭だったのであれば、「今年も大成功!」と胸を張って言うことができます。なにより大事にしたいのは、心の成長ですから。



## 展示会 フォトギャラリー



書写



図工



家庭科クラブ



自由研究(理科)



文芸



歴史クラブ



折り紙クラブ



夏の自由研究



英語



ふくべ細工(6年)



# 学芸会について 各学年より



## <1年生>

1年生にとっては初めての日出祭となりました。劇『110ぴきわんちゃん』、合奏『かえるの合唱』、合唱『もしも空を飛べるなら』を発表しました。

9月からたくさん練習を重ねてきました。本番では緊張しながらも練習の成果を十分に発揮することができました。笑顔で演技したり歌ったりすることができ、これまでで一番上手な発表でした。

子どもたちからは「どきどきしたけれど、楽しく頑張ることができた。」

「また来年も頑張りたい」など、前向きな感想が上りました。この経験をこれからの学校生活に生かしてほしいと思います。



## <2年生>

劇『スイミー』では、せりふの言い方や身振り手振りを工夫し、自分の役になりきって、練習を積み重ねました。本番では、海の中の魚たち世界を見事に表現することができました。フィナーレでは、鳴りやまない大きな拍手に包まれ、子どもたちは達成感を味わうことができました。

木琴や太鼓、トライアングルなど、いろいろな楽器を使って、初めての合奏『聖者の行進』に挑戦しました。みんなで息をぴったりと

合わせることができました。

合唱『赤いやねの家』では、歌詞の意味を考えながら、優しくのびのびと歌うことができました。



## <3年生>

劇『金のがちょう』と合奏『ライオンキングメドレー』、合唱『小さな勇気』を発表しました。

劇は、3年生が小学校生活最後の発表となります。毎日放課後に残って、台詞の読み方や動き方を練習し、本番では見ている人を楽しませる素晴らしい劇を披露できました。

合奏ではリズムが崩れないよう、周りの音に合わせて力強く演奏することができました。合唱では歌詞の意味を考え、どのように歌ったら聴いている人の心に響くのか…一人ひとりがしっかりと考え、

素敵な歌声を聴かせてくれました。絆が深まる、素敵な日出祭となりました。



## <4年生>

練習では曲に合わせた優しさや力強さを表現することに苦勞した『HINODE コンチェルト』。本番では、素晴らしい合奏になりました。

合唱曲『つなぐ未来』は音楽科の富樫先生が作詞作曲された曲で、子どもたちが題名をつけました。大切な友達や家族への感謝の気持ちをこめて歌いました。子どもたちの想いが伝わる素敵な歌を届けることができました。これからも胸の中に輝く想いを大切にしてもらいたいです。

学芸会後の笑顔あふれる子どもたちからは、自分たちの発表に対する達成感と来年への意気込みを感じました。



## <5年生>

合唱曲『気球に乗ってどこまでも』の心躍る雰囲気を実感すべく、練習では5年間の小学校生活で経験した感情を歌に乗せることに取り組みました。

来年度は最高学年という自覚も芽生え始めた中で、以前の無邪気な元気さだけでなく、苦楽を共にした仲間との時間がくれた成長を歌詞に乗せ、心に響く美しい歌声を聞かせてくれました。

歌詞にもあったように、輝く夢におかっただけでも歩み続ける、そんな子どもたちの将来が垣間見えた合唱となりました。



## <6年生>

学芸会で6年生が披露した合奏と合唱は、学芸会のフィナーレに相応しい出来栄でした。舞台上の彼らの真剣な表情と息の合ったパフォーマンスには、心を奪われるものがありました。

合唱は『心の瞳』という二部合唱。音程がしっかりとれて声の重なりが美しく聞こえてきました。合奏では、テンポが揺れる難しい『木星』の演奏でしたが、各楽器の調和を見事に表現できました。

小学校最後の学芸会を通して、6年生は一丸となって一つの目標に向かって努力し、達成感を味わう貴重な経験となったことでしょう。





## 日出祭 各クラブの発表

### <ダンスクラブ>

ダンスクラブは、1学期から日出祭の発表に向けて練習を始めました。演目は候補曲の中から自分達で考えて踊るものを選び、練習しました。

クラブの時間に加えて、直前の2週間はお昼の練習もほぼ毎日行いました。ふりを覚えるだけでなく、難しいフォーメーションチェンジも覚えなくてはならず、踊りながら位置を変えていくことに苦戦しました。みんなで声をかけ合ってたくさん練習した甲斐もあり、当日には笑顔も見られ、自分達も楽しみながら発表をすることができました。会場の盛り上がりも、メンバーの自信に繋がりました。



### <音楽クラブ>

音楽クラブでは、ドラえもんの友情をテーマに「タイムパラドックス」と「ひまわりの約束」を演奏しました。6人という少人数なので、練習を始めたころは音色も歌声も寂しくなりがちでしたが、毎日練習を重ね、本番は会場にしっかり響かせることができました。何よりも、たくさんのドラえもん仲間（先生たち）が応援で演奏に加わってくださり、とても心強かったです。

本番のアリーナは大いに盛り上がり、メンバーの表情からも達成感がうかがえました。少人数でも頑張っって練習してきたよかった！と思える思い出深いステージになりました。



### <吹奏楽クラブ>

吹奏楽クラブでは、【士官候補生】【タイムパラドックス】【吹奏楽のための民話】【ダンスホール】の4曲を発表しました。どの曲も難しいものばかりなので、初めのうちは弱音を吐いていましたが、テンポをゆっくりにして地道に練習していくことで段々と演奏できるようになっていきました。

本番では、勢いのある子どもらしい演奏を発表できました。また、『みんなで音を合わせる』ということが日常生活にも影響するのか、移動が素早かったり、片付けがきれいにされていたり、舞台の準備に協力的だったり、演奏以外の部分でも成長を感じることも多くありました。

